

発掘ニュース

第 37 号

平成 5 年 3 月 1 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団
TEL 0246 (29) 0391

泉の駅前は遺跡だった！

— 泉第三土地区画整理事業関連発掘調査 平成4年度の成果 —

折返A遺跡 土地区画整理事業にともない、遺跡内に幹線道路が作られることになり泉町C遺跡とともに発掘調査が行われました。その結果この地が古代の大集落であることがわかりました。

折返A遺跡は今から約1600年～1500年前の古墳時代前期から中期にかけてのムラのあとです。

竪穴住居跡が38軒みつかりました。2～3軒が重複しており、ひんぱんにマイホームの建て替えが行われていたらしいのです。なかには火災にあって焼け落ちた様子をはっきりわかる家もあります。家主があわてて逃げ出したせいか、家の中には甕（かめ）や碗（わん）などが置きっぱなしにされていました。



いつの時代も火の用心

泉町C遺跡

泉町C遺跡からは、いまから約1400年前の古墳時代後期といわれる時期の集落の跡や、江戸時代ごろに造られた農業用水路（堀江）の跡が発見されました。

古墳時代後期の人々が住んだ竪穴住居跡は、8軒みつかりました。これらの住居は現在、畑として使用されている地面の約30cmぐらい下にある、おおむかし、海岸だったところに形成された砂浜（浜堤：ひんてい）の上に造られていました。

住居の中からは当時の人々が使用した土師器（はじき）、須恵器（すえき）といわれる土器がみつかりました。煮炊きに使った土器（甕）、米などを炊いた土器（甑：こしき）お供えなどに使用した土器（杯：つき）などがありました。

★「古代陸奥国といわきの歴史展」

日時 平成5年3月17日から

3月25日まで（21日休館）

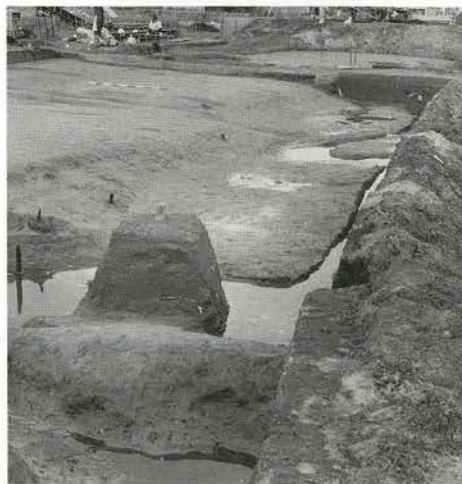
場所 いわき市文化センター3階



遺跡の位置図



古墳時代後期の住居跡



江戸時代の堀江の跡